

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「崎陽軒、“シウマイ年賀状”」
- 2) 「南船場に道の駅セレクトショップ」
- 3) 「食べられる iPhone ケース」

---

1) 「崎陽軒、“シウマイ年賀状”」

崎陽軒は 11 月 19 日より、発売 36 年目となるロングセラー商品「シウマイ年賀状」を販売している。「シウマイ年賀状」は、年賀はがきと懸賞応募はがきがセットになっている年賀状。年賀はがきには「昔ながらのシウマイ 15 個入」1 箱の引換え券、懸賞はがきには抽選でプレゼントが当たる応募券がつく。価格は 1 枚 550 円（郵便切手代含まず）。

絵柄は、横浜風景（山下公園通り／龍舞）、干支（辰）、無地の 3 種類。販売は 2012 年 1 月 7 日まで。応募締切は 2012 年 1 月 13 日。懸賞プレゼントは A-C 賞、W チャンス賞の 4 種類。A 賞＝劇団四季ミュージカル「キャッツ」横浜公演ペア鑑賞券（C 席 10 組 20 人）、B 賞＝とらふぐ切身、とらふぐ皮、鍋だしなどがセットになった「とらふぐちり鍋」（20 人）、C 賞＝崎陽軒本店と戸塚崎陽軒で利用できる「崎陽軒本店・戸塚崎陽軒 共通お食事券」（20 人）、W チャンス賞＝「崎陽軒商品券 1000 円分」（100 人）。

販売・引換え対象店舗は神奈川・東京を中心とした直営店約 140 店舗ほか。

崎陽軒の広報・マーケティング部の西村浩明さんは「新年のご挨拶とともに、横浜名物シウマイも贈れ、抽選で素敵なプレゼントが当たるという大変ユニークな商品です。まとめ買い特典として、崎陽軒オリジナルシウマイ弁当をはさめるマグネットのプレゼントもごさいます」と話している。

おめでとう新年の始まりに気を遣わずもらって嬉しい物があいさつと一緒に届くとは素敵なアイデアだと思う。35 年も続けられていたことを知らなかったが、送る人ももらう人も良い気分になるし何より企業にとっても大きな宣伝になると思う。ちょっとした工夫でこうした効果を得ることができるものは、意識してまわりを見直してみればまだまだありそうだ。

---

2) 「南船場に道の駅セレクトショップ 全国 300 カ所以上巡る」

南船場に 11 月 11 日、道の駅のセレクトショップ「みちのたより」がオープンした。

昨年 11 月に開設した「道の駅専門ネットショップ」が、全国に 1000 カ所近くある道の駅の 300 カ所以上を訪れ、「その地方のこだわりの品」を厳選して集め、今回、実店舗を開いた。

店舗面積は約 22 平方メートル。10 の都道府県から集めた調味料、ジャム、飲料、バスグッズなど 80 点を扱う。社長の溝口美緒さんは「今は、ご当地カレーを取り入れたいと考えていて、品数も増やす予定」と話す。

「一番人気」の商品は静岡県の「富士山紅茶」。そのほか、和歌山県の「しぼりたてみかんジュース」、石川県のせっけん「なまこ美人」、長野県の「信州飯田のねぎだれ」などを用意。

ドライブ好きでいろいろな道の駅を自ら訪れる溝口さんは「地方の特産品にはこだわりの商品がたくさんあるので、身近で買えるようにして道の駅の架け橋になりたい」と意欲を見せる。

最近ネットショップで全国のいろいろな物が簡単に手に入るが、やはり実物を見たり探していた物以外の商品と出会ったりできる点で実店舗は必要とされると思う。道の駅は基本的に車での来店が多いと思うので、普段車に乗らない人へのアピールとして都市部に出店することは効果的ではないか。

---

### 3) 「食べられる iPhone ケース」

美祿で土産品の製造・卸を手掛ける「樂喜」が11月5日、「サバイバルせんべい iPhone5 専用ケース SV3818」の販売を始めた。

同商品は玄米煎餅で作った「食べることができる」iPhone5 専用ケース。原料は山口県産にこだわり、美祿産の米と下関産の塩を使う。

同社が10月に玄米を使った保存食として発売した「サバイバルせんべい」に対し、利用客から「もっと携帯しやすくしてほしい」との要望にこたえて開発。価格はサバイバルの語呂から3818円。インターネット限定で販売する。

完全受注生産の同商品。吉田龍司社長は「製造は職人が一つ一つ手作り。私が作った木の型に米を入れて作るが整形が非常に難しく、10個作っても商品として出せるのは2個ほど」とすさまじいまでの歩留まりの悪さを暴露。「在庫しているうちに煎餅が湿気るかもしれないから」と受注生産の理由を明かす。

取り扱いについては「iPhone ケースとして世界一割れやすい(笑)。当社で実証したところ装着するときに割れる確率は76%、充電器を挿入するときに割れる確率は54%。落とすときには120%割れるので注意してもらいたい」と話す。

「楽しいものを提供したい」をモットーに1945年に創業した同社。吉田社長は「煎餅が湿気ることや使っているうちに手あかが付くこと、商品配送時に割れるリスクがあることなどを十分に了承していただいたうえで、宴会などのパーティーグッズとして使ってもらえれば。山口が注目されるきっかけの一つになれば」と話す。

実際に使うことはほぼ不可能な 아이폰 ケースで、話題性がかなり強いものになっている。この商品から、サバイバルせんべいという商品を知るきっかけにもなるので戦略としては面白いと思った。

このケースが無事届くかどうかサバイバルな気がするが、別の商品をアピールするための大胆な切り口として有効そうだ。